



仁和寺地蔵盆での本調子踊り

スローなテンポと 祇園囃子が特徴 中庄本調子保存会

「地元では、元禄年間に始まったと伝えられます。また、浄瑠璃や義太夫がベースになったともいわれ、音頭には義太夫の題目から引用したとみられるものが多く伝えられています。高島音頭の中でも他と比べると



本調子の練習

テンポが遅く、音頭に続いて太鼓、三味線、篠笛、鉦による「祇園囃子」があるのが特徴です。現在、区内では音頭および和楽器を担当する14人と踊り手10人の計24人で中庄本調子保存会を結成し、毎年、地蔵盆である8月23日、マキノ町中庄の仁和寺にまつられている子安地蔵への奉納踊りとして盆踊りを行っています。時代の変化、娯楽の多様化などにより、盆踊り自体が低調となり、後継者不足が深刻化しています。このため、これまでは踊りだけに参加していた女性にも楽器に加わってもらい、毎月2回の定期練習を続けています。また、盆踊りの時期には小学生にも太鼓演奏を指導し、踊りには子ども会に参加してもらっています。」(本調子保存会・栗津伝志郎さん)



夏は

やつぱり 盆踊り

市内には、古くから伝わる貴重な踊り歌があり、現在でも夏になると、各地で踊られていることをご存知でしょうか？ここでは、平成18年に市の無形民俗文化財に指定された高島音頭、そして滋賀県選択無形民俗文化財である古屋六斎念仏踊りを紹介します。

古くから伝わる 踊り歌

市内には、いくつかの異なる特徴をもった地域ごとの踊り歌が伝承されており、それらを総称した「高島音頭」全体が市の文化財として指定を受けています。

高島音頭の起源は、一節によると室町時代の念仏踊りであるとも、また、関ヶ原の戦いの落ち武者が広めたものとも言われていますが、真相は定かではありません。

朽木地域などで踊られるヤッサ踊りについては別の伝承があり、毛利元就の三男の小早川隆景が三原城を築城したときに始まったと伝えられ、築城を祝う民衆が城を造る作業の掛けであった「ヤッサ、ヤッサ」をリズムに踊ったことが起源であるといわれています。

江戸時代中期になると、音頭の文句には流行りの義太夫等が取り入れられるようになりました。高島音頭でよく唄われる現在の題目も、多くはこの時期に取り入れられ、確立していったようです。

高島音頭 の伝承者たち

復活から 間もなく60年

高島音頭保存会

「音頭の起源については諸説があります。高島音頭保存会としては、昭和25年ころ、戦争で途絶えていた

高島音頭を水上農雄氏が発起人となって高島音頭振興会として復活し、その後、昭和40年に高島音頭保存会に名称を変えて現在に至っています。

現在保存会は音頭取り、太鼓、三味線、囃子、踊り子の計43人で構成され、今津地区で毎年夏に行われる高島音頭総踊りや各地区での盆踊りに参加しています。高島音頭と一口に言っても、その地域によって踊り方も節回しも使う楽器も違ってきます。おそらく昔は村ごと踊りの名人がいて、その人たちが踊り方や節回しを遊び心で少しずつ変えていったことから、地域の個性が出てきたのではないかと思われます。

今後は、地域のそれぞれの個性を生かしながら、高島市に伝わる「高島音頭」を広く多くの皆さんに発信していければと思います。」(高島音頭保存会・井上佳郎さん)



一昨年、伝承歌の保存と普及を目的に高島音頭のCDを作成。CDは琵琶湖周航の歌資料館などで販売中です。